

四天王寺小学校の 英語教育



越えて、つながる。

四天王寺小学校の英語教育

わたしたちの生活は、「意味」の織物にたとえることができます。世の中のルールも、社会のしくみも、すべてある意味からなりたっています。そしてその意味は言葉によって担われるのです。

家族の思い出も、いま現在のやりがいも、そしてこれからの希望も、すべてが言葉にやどります。

言葉で想い、言葉で考え、言葉で表現し、言葉でつながる、それが人間であることの証しであるなら、こころの豊かさは言葉の深さ、言葉の広さにほかなりません。

ですから、四天王寺小学校では、子どもたちの言葉の育ちをいのちのように大切にします。日本のこころ、日本の文化は日本語にこめられているのと同じように、海外のこころや文化は、まずは英語にこめられる—それがグローバル時代の言葉のあり方です。

わたしたちは、遣隋使を派遣された聖徳太子の見とおし、広い視野を尊敬しながら、遣隋の使者のような使命感をもって、英語教育にとりくみます。

6年間の英語カリキュラム

通常授業、四天王寺小CLIL、イングリッシュモジュールなど、週約5時間の英語関連授業の時間を確保しています。

CEFR

ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) は、言語能力を評価する国際指標です。
2020年の大学入試の改定を前に日本の各大学も入試の際の指標として取り入れるようになってきました。

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
CEFR	PreA1			A1 (実用英検®5級-3級相当)		A1-A2下位 (実用英検®準2級相当)
めざしたい力	Listening&Speaking 身のまわりのこと、ものを表す簡単な文が理解できる。年齢、家族、家のことなど個人的な質問に答えられる。 Reading&Writing アルファベットの大きな文字・小文字を認識できる。アルファベットの大きな文字・小文字を書くことができる。自分の名前や簡単な単語を書くことができる。			Listening&Speaking "I think so." "You are right." などを使って同意でき、同意できない時にも、それを自然に表現できる。疑問詞を使って質問したり、既習の文で表現できる。 Reading&Writing 何度かゆっくり読めば、短文を理解できる。与えられた単語で簡単な文を書くことができる。		Listening&Speaking 子どもが理解できる内容の「問題」「課題」について話ができる。 Reading&Writing すべての単語の意味がわからなくても日常生活のものであれば少し長めの文を読んで理解できる。短い会話文などを書くことができる。
文法事項例	<ul style="list-style-type: none"> ●Where's the doll? →It's on the bed. ●Can you ride a bike? ●Elephants have long trunks. 	<ul style="list-style-type: none"> ●There is a couch in the living room. ●I like playing tennis. ●What are you doing? →I'm eating cheese. 	<ul style="list-style-type: none"> ●What time do you have dinner? →I have dinner at 7:00. ●She does karate on Sundays. 	<ul style="list-style-type: none"> ●She's very good at sailing. I'm not good at sailing. ●Where were you yesterday morning? →I was in the kitchen. 	<ul style="list-style-type: none"> ●What did you do yesterday? →I visited my grandparents. ●Why is she tired? →She's tired because she stayed up late. ●I have to make my bed. 	<ul style="list-style-type: none"> ●We should use wind and solar power. ●They are going to travel. ●Is that your friend who lives in Spain?
国際交流	Punahou Schoolの子どもたちとの出会い		Punahou Schoolとのビデオプロジェクト	ハワイ短期研修	ハワイホームステイ*	ポートフォリオの作成

※計画中

2017年度
1年生

こんなに
英語力が伸びました!

学んだ表現を
教室外で使える!

学んだ表現を
使って自分から
質問することができる!

質問を理解し、
適切な表現で
答えることができる!



英語教師
ウォルフ 佳代

ある日の授業前、私たち英語教員の姿が教室になかった時、子どもたちが
"Where are you, Onno? Ms. Wolf?"
と、さがしてくれていたことを担任から聞きました。以前に学習したことを授業外で活用できている姿に大変うれしく思いました。

海外交流校 Punahou School (プナハウスクール)

英語プログラムの交流校は、ハワイ・オアフ島にあるPunahou School(プナハウスクール)です。Punahou Schoolは1841年創立の伝統校。子どもたちが自ら主体的に考える探究学習を長年実践しています。またハワイは自然学習、平和学習といった学びの宝庫です。Punahou Schoolとの交流を中心としたハワイプログラムは、子どもたちにとって、いつまでも忘れることのできない貴重な体験になると確信しています。

伝統・文化を大切に



Punahou Schoolの3年生には「IPU」という伝統的な打楽器を手作りして、演奏するプロジェクトが受け継がれています。本校3年生とのビデオプロジェクトでは、この「IPU」について私たちに紹介してくれるようです。



平和教育の一環に



左はパールハーバーに飾られている日本の学校から贈られた千羽鶴です。日本での平和学習と合わせて、平和の大切さをあらためて感じることもできる場所、それがハワイであると思っています。



四天王寺小学校の「英語教育」
6年後の
子どもたちの姿

場面に応じて
英語表現ができる子ども。

日本の文化を
世界に発信していこうという
意欲に満ちた子ども。

相手の文化に興味をもち、
それを理解し、尊重する姿勢、
感性をもった子ども。

人びとの幸せのために、日本で、世界で、
何かできることはないかと、
自分に問い、考え、行動する子ども。

進む英語教育改革

小学校で英語が必修科目に

2020年から3・4年生は「外国語活動(1時間/週)」として英語教育がスタート。
5・6年生では英語の教科化(2時間/週)が実施される予定です。

中学校の受験科目に英語が導入

近畿圏では全体の約20%に相当する28校(2017年度)で入試に英語を導入。
この傾向は今後ますます増加するとみられています。

大学入試制度改革で出題内容が変更

従来の「読む」「書く」重視型入試から、「話す」「聞く」能力を加えた
4技能バランス型入試への改革に向けて、
コミュニケーション力の育成がより大切となります。

真のコミュニケーション力を育む、四天王寺小学校の「英語教育」



インタビュー



住田瑠音さん

えいごがすきです。えいごはそんなにむずかしくないです。この前、えいごのじゅぎょうで、みんなでmonkeyやlionになりました。みんな、本もののどうぶつみたいになるのでとてもたのしいです。Onno先生がかくれんぼをして、'He's in the bathroom.'とか、よそうをしてさがしたのもたのしかったです。大きくなったら、友だちのケイラに会いに、アメリカへ行きたいです。もっといろんな国の人もおはなしてみたいです。



保護者の方

三単現の"s"とか、母音の前の冠詞は"an"とか…そんなことを何も考えずに、勝手に口が動いている娘を見ると、とにかく羨ましい!という感想が一番出てきてしまいます。いまや英語の習得自体は、どちらの学校でも可能な時代なのかもしれません。ただ、幼いころから仏教にまつわる行事や礼法の授業などで自然と「和のこころ」に親しんでおくことで、日本の歴史や文化についての素養をきちんと身につけ、日本語でも英語でも、「自分のことば」で発信できる子になってくれるのではと期待しています。



チャド先生

I love to see the kids enjoy learning English. Being perfect isn't important for their development at this stage, so when they try their best and manage to achieve a goal no matter how small, it makes me very happy. I want them to have fun and at the same time open their minds and hearts to the benefits knowing a second language can bring them.

たとえ小さなゴールではあっても、子どもたちがそれに一生懸命向かっていく姿に喜びを感じます。楽しみながら、英語がもたらしてくれる世界について知ろうとする心を大切にしてほしいと思っています。



オノ先生

I like that we're teaching English as a communication tool instead of just a subject. Especially because of our CLIL program, there's a lot of exposure to English. This allows us to keep English alive outside the four walls of the classroom and to create an understanding of the language beyond the words.

英語はただ教科であるだけでなく、コミュニケーションのツールであることをわたしたちは教えています。特にCLILの授業では、英語が教室の壁を飛び越え、言語本来の体得を可能にします。